

# 平成 28 年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月19日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について分析結果がまとまりましたのでお知らせいたします。本調査は、国語・算数の2教科と、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況で特徴的な部分をお伝えいたします。

## 総合結果（国語・算数）

国語・算数それぞれにA・Bの領域があり、Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題になっています。両方とも全国平均や京都府平均よりも上回り、よく理解されている結果が出ています。

### 国語科A・Bより

国語Aでは全般的にできています。特に「漢字を読む」は正答率が高く、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができていますが、「省く」の問題では、やや正答率に開きがあり、また「漢字を書く」では、「相談する」の正答率がやや低く、日々の学習で、正確に漢字を書くように心がけることと繰り返し練習することが必要だと考えます。他に「目的に応じて図と表を関連付けて読む」問題では正答率が高く、反対に「登場人物の人物像について複数の叙述を基にして捉える」問題では正答率がやや低く、根拠となることの読み取りに課題があります。「ローマ字を書く、読む」の正答率が低いので、今後さらに取り組む必要があります。

国語Bは、Aよりも正答率は低いですが、全国平均等と比較してはよくできています。「目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く」や「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する」問題では正答率が高く、反対に「目的に応じて、質問したいことを整理する」や「質問の意図を捉える」の問題では、全国平均等と同じく正答率が半数を少し超えるほどなので、日々の授業で意識して取り組む必要があります。今後「話す・聞く能力」「書く能力」を高める取組が必要だと考えられます。

### 算数科A・Bより

算数Aでは、全般的にできています。特に、「数と計算」の「繰り下がりのある減法の計算」、「小数の除法の計算」や「不等号」の問題の正答率が高く、基本的な力がついています。しかし、「1を超える割合を百分率で表す場面において、基準値と比較量の関係を理解する」や「単位量あたりの大きさの求め方を理解する」「末尾の位のそろっていない小数の加法の計算」の正答率が低く課題が残りました。

算数Bは、Aよりも正答率は低いですが、全国平均等と比較してはできています。「示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じ決まりが成り立つかを調べることができる」問題ではかなり正答率が高いですが、一方「図形」の領域、数学的な考え方」の観点、「記述式」の問題形式が全国平均等と同じく弱いです。特に、「示された形をつくることができることを説明する意味を、数や演算の表す内容に着目して書く」問題で、示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できることが一番正答率が低く、次に「目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く」の問題で示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できないといけないのですが、無回答の児童も少々いて、何を書いていいのかわかりませんでした。これは、式と答えだけでなく、図や表や絵を使って自分の考えをノートに書いたり、考えを説明したりすることを、今後さらに多く、日頃の授業の中に取り入れていくことが求められていると考えられます。

### 保護者のみなさまへ

全国学力・学習状況調査は子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性をさらに伸ばしたり、課題を見つけて解決したりしていくためのものです。結果が全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な毎日の積み重ねにより定着していくもので、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が基盤になります。これからも引き続き、子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をよろしくお願いいたします。